



森林域を流れる河川の水質形成に関する研究

工学部 都市マネジメント学科／水環境工学、廃棄物工学

中山 正与 NAKAYAMA Masatomo

教授、博士（工学）



1. 研究内容

下水道整備の進展により点源汚濁源からの負荷量は減少しているが、それに伴い面源汚濁源からの負荷量が相対的に増加していることが問題となっている。また、汚濁解析を行う際にも、その解析精度を上げるためには面源汚濁負荷量を把握する必要がある。面源汚濁源のなかでも森林域からの流出負荷量の特性について、長期的かつ継続的な測定を行い検討している。



2. 地域・産学連携の可能性

大学キャンパスに近い仙台市近郊で調査を継続しているが、この研究の精度を上げ、研究の汎用性を高めるためには、調査の範囲を拡大する必要がある。そのためには多方面の方々との地域連携が必要である。

自治体や地域との連携・協力により実際のデータを集積したいと考えている。



面源汚濁源、森林河川、汚濁解析